

アジア連帯経済フォーラムに参加して

主任研究員 重頭ユカリ

1 はじめに

2009年11月に東京で、アジア連帯経済フォーラムと題する国際的なシンポジウムが開催された。農中総研も開催趣旨に賛同する団体としてフォーラムに参加したので、その内容を紹介したい。

2 連帯経済とは何か

「連帯経済」という言葉は、19世紀からヨーロッパ各地で登場してはいたが、01年にブラジルで開催された世界社会フォーラムで注目を集めるようになった。その背景には、資本主義市場経済がグローバルな規模で拡大していくなかで、環境破壊や経済格差が進展しているが、国も財政難から十分な対応をとることができず、失業、貧困、環境破壊などの社会の問題は深刻化する一方だという状況がある。こうした社会的な問題に、人々が協力して対応しようという動きが世界各地でできており、それを称する言葉として「連帯経済」という言葉が用いられるようになったのである。

具体的な活動分野としては、環境保全、持続可能な農業、市民金融、地域通貨、地域おこし、雇用創出、人材育成、福祉・医療サービス、社会的に排除されている人々の包摂、政策提言などが挙げられ、組織の形態としては、協同組合、NPO、NGO、アソシエーションなどであることが多い。

ただし、「連帯経済」は、グローバル化がもたらす様々な弊害に対して、人々が主体となって自ら活動をするとともに、政

府や企業とも連携しつつ社会のあり方を変えていこうとする大きな動きとしてとらえられているが、現在のところ、その概念の具体的な内容や、そこから導き出される政策が体系化されているわけではない。

3 アジア連帯経済フォーラムとは

連帯経済の研究者や実践家の集う場としては、毎年世界各地で開催される世界社会フォーラムがあるが、さらにアジアでの交流の場を増やすという目的を持って、07年からアジア連帯経済フォーラムが開催されるようになった。今回の東京でのフォーラムは、07年にフィリピンで開催されたのに続く第2回であり、約60名のボランティアのスタッフによって運営され、アジア、ヨーロッパ、アメリカ等の18カ国39名のゲストスピーカーを含む、延べ420人以上が参加した。

フォーラムの1日目と2日目の午後には、「グローバルに広がる連帯経済」、「アジアにおける連帯経済」、「連帯経済を促進するための社会的金融」、「社会的企業の果たす役割」、



国連大学で催された1日目の報告の様子

「連帯経済の達成をはかる指標と評価」というテーマで報告やパネルディスカッションが行われた。2日目の午前中は、「社会的金融の可能性」、「フェアトレードの拡大と深化」、「いのちのセーフティネットを地域で創る - 福祉・医療の現場から」、「食と農の循環による地域の小さな経済づくり」、「国際連帯税」という5つのテーマで分科会が行われた。

4 地域に密着するがゆえに多様な取組み

「アジアにおける連帯経済」では、インドの女性自営業協会（SEWA）のイラ・シャー氏が、女性たちが集団を作って出資金を積み立てる、いわゆるマイクロクレジットの実践例を紹介した。SEWAのウェブサイトも参考にその取組みをみると、女性達は、SEWAが設立した銀行のスタッフの支援を受けながら、地域で集団を作り、リーダーを選出したり、ルールを定めたりしたのち、資金の積立を開始する。メンバーは最低1年間積立をすると借入が可能になる。例えば、野菜の行商を営む女性は、かつては朝に卸売業者から仕入れのために100ルピー借り、夜に110ルピー返済するという高利での借入をしていたが、自分が参加するマイクロクレジット機関から適正な借入をすることによって収益を上げることが可能になった。

フォーラムでは、アジアだけでなく、アメリカ大陸、ヨーロッパ、オーストラリアにおける取組みの事例が紹介されたが、それぞれの取組みは、その基盤とする地域の問題を解決するためのものであるため、地域の実情に応じた多様性をもっている。それは、連帯経

済の取組みの豊かさを示す一方で、連帯経済という言葉がさす内容や概念が曖昧であるという実態を示すことにもなった。

そのため、フォーラムのなかでは「そもそも連帯経済の定義は何で、どのような活動をさすのか」という点に関しても議論があった。例えば、韓国で貧困層の起業支援のために融資を行う社会連帯銀行^(注)は、融資のための原資を公的な団体からの助成と企業等のCSR活動による寄付によってまかなっている。連帯経済は、政府や企業との連携を否定してはいないが、政策や経済情勢の変化によっては融資の原資が得られなくなることも想定され、政府等との連携というより依存ではないか、組織の持続可能性はあるのかという疑問も投げかけられた。

しかし、実践家からは、「我々は用語の定義のために活動しているのではない」という声もあがり、実践家と研究者の立場の違いを浮き彫りにするとともに、相互交流の意義についても実感させられた。

5 ネットワークの重要性

そうしたなかで、参加者の間で共通して認識されていたのは、それぞれの経験を共有し、よりよいものにしていくため、ネットワークを形成することが重要だということである。

既に社会的金融の分野では、ヨーロッパを中心とするネットワークが形成され、一定の成果を上げている。東京でのフォーラムは、地域に根付いた多様な取組みが、大きく成長していくための、アジア、そして世界的規模でのネットワーク作りの大きなステップとなったと考えられる。

(注)銀行という名称ではあるが、銀行免許を取得した一般の銀行ではない。

(しげとう ゆかり)